

グループホームどうみょうじ高殿苑 第1回運営推進会議議事録

日時 平成 20年 7月 30日(水) 13時 30分 ~ 15時 00分

場所 (社福)邦寿会 どうみょうじ高殿苑 地域交流スペース

出席者			
事業者	7名	市職員	1名
利用者	1名	包括職員	1名
利用者家族	2名	有識者	1名
住民代表	4名	介護相談員	0名

議題

【事業者からの活動状況報告】

(1)特別養護老人ホーム

- ・「職員体制」について、現在は国の基準を上回る職員配置を敷いているが、現状として十分でない場面も往々にしてある為、地域住民の方々のご協力もお願いしたい。
- ・「ユニットケア」について、各ユニット毎に特徴も出始めているが、全体として、おやつ作り、ガーデニング、農作物の収穫などの取り組みを実施及び予定している。
- ・「全体での活動」として、ピアノ演奏会を行い、グループホーム・ケアハウスのご入居者も参加された。また、法人内の四施設合同交流会においては、恒例の各施設のご入居者及び園児と合同での演劇をはじめ、各施設毎に歌や劇を披露し、総勢100名を超える参加となった。

(2)グループホーム

- ・「入居者状況」について、やや重度化の傾向が見られる為、より個々の状況を把握した上で、ご自分で出来ることを可能な限り続けて頂き、生活援助を行っていく。
- ・来月初旬、食事会として外出を予定している。

【活動状況報告に対する評価】

- ・今まで夫婦で過ごしてきたが、自分と子どもの生活を考えた結果、施設に入ることが最善の方法だと考え、入居した。困って入っている人ばかりではないことを分かって頂きたい。(ご入居者)
- ・長年、自宅での介護をしてきたが、入居後の短時間の間でしっかりと本人の状態を把握し、良い対応して頂き、ありがたい。入居後も本人は安心しているようだ。(ご家族)
- ・認知症ということで子ども扱いしてしまうことがあったが、職員の皆さんがしっかりとした言葉遣いをされていて、反省しました。(ご家族)
- ・その人の能力に応じた生活をするのが大事だと分かった。(住民代表)
- ・重度化しても、環境を変えずに同じリズムで生活することにより、認知症状が進んだとしても、生活能力を維持することができる。自施設でも、施設内での生活では一見変わらないようでも、ご家族と外出して初めて身体能力の低下を知ることができる。同じ環境と同じ職員による対応を続ける意味がここにあると思う。
- 一人ひとりの能力を見極め、個々人のできることを把握した上で、個々に合った生活リズムを確立し、出来ることを可能な限り続けて頂くことが大切である。(有識者)

【運営推進会議からの要望・助言】

- ・少し出掛けようと思う時に、地域の方にもお手伝い頂ければと思う。(ご入居者)

【その他】

- ・道明時地区の独居生活者を中心に、食事会の開催を企画して欲しい。(住民代表)
- 厨房の体制が整い次第、改めて相談させてもらいたい。